コラム

表紙写真
SFC の瞬間を未来へつなぐ：My Favorite Snapshot of SFC に寄せて

このたび、SFC ジャーナル「My Favorite Snapshot of SFC」企画にご応募いただいた多彩な作品の中から、最優秀賞 1 作品、優秀賞 7 作品、佳作 32 作品、計 40 点の優れた表現を選出･ご紹介できる運びとなりました。まずは、応募者の皆さまの創意と探究心、そして温かな共感の連鎖に、心より敬意を表します。

本企画は、KEIO SFC JOURNAL のオールカラー化 1 周年を記念して実施されました。応募対象をあえて学生に限定し、SFC (湘南藤沢キャンパス) という独自の環境が育む「今この瞬間」の物語を切り取り、未来へとつなげる試みとして立ち上げました。日常に潜む小さな驚きや問いかけ、新たな視座を「写真」というメディアを通して表現することで、このキャンパスに流れる多様な時間や感情を、読者の皆さまに発見・再発見していただき、未来を切り拓く原動力にしてほしいという願いを込めています。

審査においては、SFC の教員審査員一人ひとりが、グランプリにふさわしいと感じた作品を 5 点、また SFC の多様性や魅力を記録として残すに値する作品を 5 点選出しました。最終的に掲載された 40 作品は、いずれも複数の審査員の支持を集めたものです。なかでも最優秀賞に輝いた作品は、七夕祭で打ち上げられる花火を卓越した技術と美的センスで捉え、SFC のみならず広く人々の記憶や感性に問いを投げかける、圧倒的な存在感を放っていました。優秀賞・佳作の各作品もまた、異なる視点や表現手法が光り、SFC らしい自由で温かな創造性が展開されています。

多くの応募作品は、SFC が「学びと創造の場」であることの本質を、改めて鮮やかに浮かび上がらせます。目の前の世界に深く向き合い、自らの問いを持って表現と対峙したとき、作品は個人の経験を超えて、共感や対話の波紋を広げていきます。本企画がその一助となり、参加者だけでなく鑑賞者の皆さまにも、新たな視点や感情の共有のきっかけとなれば幸いです。

最後に、ご応募くださったすべての方々、そして本企画にご協力いただいた審査員・関係者の皆さまに、あらためて深く御礼申し上げます。今後も SFC ジャーナルは、キャンパスの息づかいや問いに耳を澄ませながら、多様な表現と対話の交差点をつくり続けてまいります。

KEIO SFC JOURNAL 編集長
My Favorite Snapshot of SFC 企画委員長
黒田 裕樹

最 優 秀 作 品

■名前　手塚 剛

■タイトル　Fusion

■撮影場所　キャンパス正門前の歩道

■撮影者説明　2025 年 7 月 5 日に撮影。初めて参加した七夕祭の花火は、想定していたよりも規模が大きく、圧倒されました。短い時間で画角を調整し、三脚でカメラを固定。長時間露光することで、次々と揚がる花火の連続を一枚に収めました。タイトルには、SFC での学びの形である文理融合や、花火とキャンパスが織りなす唯一無二の光景としての意味が込められています。

■審査員コメント　SFC 七夕祭の夜空を彩る一瞬の輝きを、これほどまでに完璧に切り取った写真はかつて見たことがありません。色とりどりの花火が夜空に織りなす光の華は、技術の粋を集めたかのような鮮明さと立体感で表現されています。炸裂の瞬間を的確に捉えるシャッターのタイミング、その下に広がる人々のシルエットとのコントラストが、静と動、光と影の物語を紡ぐ。画角は絶妙で、右手に構える近未来的なキャンパスの建築と、観客たちの背中越しの視線が、まさに「この場にいた」という臨場感を観る者に与えます。まるで空に咲いた大輪の華が、人々の感情までも打ち上げているかのようです。これは単なる記録ではなく、SFC という場所が持つ詩情と技術、そして人々の高揚が交差する「祝祭の記憶」の一枚だと思います。

優 秀 作 品

■名前　H. S.
■タイトル　世界的な自然保護地域
■撮影場所　ドローンを用いてテアトロン上空 (100m) から空撮したキャンパス
■撮影者説明　SFC の自然共生サイト申請時に空撮したドローン画像でリテイクは 50 回以上行った。結局本画像は、自然共生サイトでは使用されなかったが、個人的にはよく撮れた画像なので本企画にて供養したい。
2024 年 4 月 13 日に撮影。
■審査員コメント　新緑の鳥瞰写真。SFC のキャンパスの立地環境も写された素晴らしい写真です。

優 秀 作 品

■名前　M. S.
■タイトル　おとぎの世界のツインライナー
■撮影場所　α館の上の階
■撮影者説明　秋、SFC のキャンパスにツインライナーで入って、構内の紅葉の美しさに感動した人はたくさんいると思います。まるでおとぎの国にやってきたように。その様子をとらえた一枚です。
■審査員コメント　なかなか見ないα館上からの写真。紅葉の一日しか撮れない。ツインライナーも SFC らしい。

優 秀 作 品

■名前　高欣欣

■タイトル　雨上がり、鴨池に虹がかかる日

■撮影場所　鴨池上空

■撮影者説明　2024 年 6 月 21 日は、国際微生物サンプリングデーであり、私が初めて慶應義塾大学を訪れた特別な日です。修士課程進学を目指して、先生や学生の皆さんと一緒に微生物採取に参加しました。集合場所を間違えて鴨池に迷い込んだのですが、そこで偶然、雨上がりの空に架かる美しい虹に出会いました。この出会いが、慶應での幸せな未来の予兆であると信じています。

■審査員コメント　虹の一瞬を夏の SFC キャンパスとともにうまく構図に入れている。宝物があるという虹の根元はきっと SFC ですね。

優 秀 作 品

■名前　　淺妻 雅彦
■タイトル　　七夕彩
■撮影場所　　バス停からα館・Ω館に通じる階段の横にある滝の一番下の部分 (滝の中や階段からは撮影していません)
■撮影者説明　　初めて SFC の七夕祭に訪れた。そんな七夕祭の 1 日目のフィナーレを彩る花火を写真に収めた。(2025 年 7 月)
■審査員コメント　花火と校舎のコントラストが素晴らしいです。

優 秀 作 品

■名前　市村 涼葉
■タイトル　秋色に染まる SFC
■撮影場所　κ館とε館の間 (35.3878172, 139.4267117)
■撮影者説明　肉眼で見て「いいな」と感じた瞬間や景色を普段から写真に収めるようにしています。この写真も例外ではなく、SFC を歩いていた際にふと感じた「いいな」と感じた風景を画角に収めました。(撮影時期 : 2024 年 11 月)
■審査員コメント　季節によって変わる SFC の表情をよく切り取っています。綺麗な紅葉に感動しました！

優 秀 作 品

■名前　金子 華理
■タイトル　ランタンの妖精たち
■撮影場所　鴨池サブウェイ前
■撮影者説明　2024 年 10 月にゼミの先輩の修士研究として行っていたランタンの実験として、約 80 基の灯りを鴨池周辺に点在させた様子です。自分が作り出した灯りを灯すことで出来上がった風景は、普段見ている夜の景色とガラッと変わり、とても思い入れの深い場所になりました。
■審査員コメント　見慣れた夜の景色も、ランタンの灯りで幻想的になる。創意工夫で新たな美が生み出される瞬間。SFC の在り方を見せられているようでした。

優 秀 作 品

■名前　亀井 理史
■タイトル　学問への入口
■撮影場所　α館前の階段
■撮影者説明　高校３年生の時、SFC にキャンパス訪問で訪れて様々な在校生のお話を聞き、非常にやる気になった。「絶対自分も受かるぞ！」という想いを胸に、キャンパスの入り口を撮影して壁紙にしていた。今思えばこここそが私の学問の入り口だった。
■審査員コメント　毎日 SFC に来ると見るアルファ館前の階段。一人称目線で撮ったその画角と色合いが「学問への入口」というタイトルをよく表しており、何だか写真を見るだけで身が引き締まる想いがして、その写真が持つ力に大変感動しました。

佳　作

■名前　C. T.

■タイトル　クワパラダイス

■撮影場所　SFC の体育館ではない方の駐車場の近くのクワガタスポットで撮影した写真です

■撮影者説明　ヒラタクワガタも出現するそうですが、私はまだ見ることができていないので今後の期待を込めて撮影しました。コクワガタがたくさん集まっていたのでクワガタ好きにはテンションが上がる写真だと思います。2025 年 5 月 22 日

■審査員コメント　学生のときもキャンパスでクワガタを採っていたのを思い出しました。これは SFC にクワガタがとれる場所があることを私に教えてくれた貴重な写真です。

佳　作

■名前　D. O.
■タイトル　ここから始まる未来への道
■撮影場所　サブウェイ前の鴨池付近の道。κ館前の道
■撮影者説明　2025.06.27 18時頃。この広大なキャンパスであるSFCで、のびのびと学び、これからのキャンパスライフを楽しみにしている受験生、実際に在籍している塾生の未来が花咲くものになるよう、希望を込めてこの写真を撮影させていただきました。
■審査員コメント　ステキな構図です。タイトルとばっちり。ここを歩いて、みんな成長していくんですよねぇ。

佳　作

■名前　M. A.
■タイトル　ふと見上げてみると、
■撮影場所　ι館前
■撮影者説明　SFC の特徴であるコンクリートの教室棟と、その上に広がる大きな青い空がとても気に入っています。光が当たりコンクリートのわずかな凹凸や塗り跡が見えており、ありのままの SFC を写真で表現することができました。普段は何も考えずに通り過ぎてしまう教室棟をあえて止まって見上げる構図にもこだわりました。(2025 年 7 月撮影)
■審査員コメント　統一されたコンクリート造り角の三角の背景に広がる紺碧の空。これも SFC 美のひとつですね。紹介してくれたことに感謝！

佳　作

■名前　M. S.
■タイトル　研究帰りの日常、綺麗な夕暮れ、ささやかな幸せ。
■撮影場所　κ棟を出たすぐの鴨池のそば
■撮影者説明　2024 年 12 月 12 日
■審査員コメント　鴨池の向こう側を走るツインライナーがいい味をだしていますね。

佳　作

■名前　S. E.

■タイトル　中庭をめぐる７つの時間

■撮影場所　中庭

■撮影者説明　私は、春と秋になると、メディアセンター横の中庭に面した机で、やさしい風を感じながら作業をする時間を楽しみにしている。しかし､春と秋は思いのほか短く､そこで過ごせる時間も案外短い。そこで、移ろいゆく中庭の一日を記録しようと考えた。　メディアセンターの壁に面する木に全方位カメラを設置し、６時、９時、12 時、15 時、18 時、19 時、21 時の７回にわたって撮影を行った。撮影した全方位画像を、オーサグラフ図法を用いて画像変換し、それぞれをタイル状に連結した。構成は、左上から右に向かって６時・９時・12 時、左下から右に 15 時・18 時・19 時、21 時と、時間の流れに沿うように配置。 早朝には木の影はなく、日中になると木の麓に木漏れ日が差し込み、午後になると木の影がメディアセンターの壁に写される。夜になると辺りは暗く、室内の光が外の地面ににじみ出る。この作品では、朝から夜へと変化する光の変化を一枚の画面上でつなげることを試みた。 時間が移りゆく豊かさを見る人にも感じ取っていただければ幸いである。

■審査員コメント　最初は何のことかわかりませんでしたが、説明を読んで理解することができました。まるで万華鏡をのぞいたかのような独創性のある写真で、感動しました。

佳　作

■名前　S. H.
■タイトル　隣人
■撮影場所　森アトリエ裏のウッドデッキ
■撮影者説明　作業途中散歩に行こうかなってタイミングで見かけて元気が出ました。2024/07/26 撮影
■審査員コメント　黒田研から逃げたカエルでは？、とよく勘違いされるこのカエルちゃん。実は、SFC に昔から生息しているニホンヒキガエル (学名 : Bufo japonicus) です。雨の日のあとなどによくアスファルトをノッソノッソと歩いています。触っても基本的には大丈夫ですが、目の後ろにある耳腺という膨らみや体にあるイボ状の突起から、白色のブフォトキシンという毒を分泌し、炎症の原因になることも。 長時間触ったり、刺激するのはやめた方がいいですね。

佳　作

■名前　鴨池でのんびりする会

■タイトル　涼しいね

■撮影場所　キャンパス側から、鴨池の木陰でピクニックする様子を撮影しました

■撮影者説明　撮影時期は 2025 年の 7 月です。この集まりは、「鴨池でのんびりする会」というもので、何の目的もなく集まる場を作ることを目指して作られたものです。ふらっと企画して、学年も専門も違うみんなが集まり、通りがかった初めましての人、先生までがふらっと寄っておしゃべりする場所。僕はこのゆるさがとっても好きで、開催できてよかったなあと思っています。写真は夏の鴨池の弾けそうな明るさを捉えながら、集まる人たちでできている緩やかな時間と、猛暑の中に少しだけ作られた涼しさを捉えているように感じています。見れば見るほど空間に吸い込まれて、思い出が蘇ってくるように思う写真だったので、応募することとしました。

■審査員コメント　鴨池を背景に芝に座り、ご飯を食べるのって気持ちいいですよね。ここで多くの議論もなされ。SFC の創造の源かもしれません。

佳　作

■名前　Manasvi Patwardhan

■タイトル　Living in the moment

■撮影場所　The picture was taken outside the tennis court area near the monument with a view of SFC building on a beautiful bright day.

■撮影者説明　I have walked past those benches near the Honkanmae bus stop so many times, especially while walking back from the tennis court, but it's funny how I have never seen anyone actually sit there. But one day, I decided to sit down on one of those benches. Looking up at the clear blue sky, seeing all that green grass, the cool modern buildings, and people running late for their classes, made me realize what living in the moment felt like. I thought to myself about how privileged I am to study at a beautiful university like this. And honestly, no matter what people say about SFC being 'inaka', I am always going to stand up for how awesome and beautiful this place is. You could never get that in the city. This picture, from July 9th 2025, totally takes me back to that moment of realization. That's why it's one of my favorite snapshots of SFC.

■審査員コメント　バスを降りてからの最初の進路。この角度の画像は記録する価値がありますね。

佳　作

■名前　飯野 円香
■タイトル　静かな緑の動き
■撮影場所　鴨池の芝生あたりの木
■撮影者説明　普段は近くで見ようともしなかった鴨池の木も、被写体として意識して観察すると美しい曲線を描く表面があることに気付かされます。撮影時期：2024 年 12 月
■審査員コメント　静かな樹の動きを捉えたその着眼に驚かされました。

佳　作

■名前　井庭 晴香
■タイトル　秩序ある落ち葉たち
■撮影場所　慶応大学本館前のバス停の近くの木の下
■撮影者説明　紅葉が綺麗な SFC。落ちた葉っぱたちは、路面を覆うカーペットのように見えます。そこで、落ち葉を色がグラデーションになるよう木の根元から配置しました (2024 年 11 月)。
■審査員コメント　そこにある落ち葉を集めて並べただけでこんなに鮮やかな地面に。どんな葉っぱも見せ方によってアートになるんですねえ。

佳　作

■名前　菊地 千花
■タイトル　暮れ
■撮影場所　IIJ 棟 (ドライコテージ) 付近
■撮影者説明　年末最後に SFC へ登校した際の写真です。休日の静かなキャンパスと木々のシルエットが映る冬の夕暮れを撮影しました。
撮影：2022 年 12 月 30 日
■審査員コメント　落葉すると、いよいよ秋学期のテスト期間だとか思う学生も多いかもしれません。

佳　作

■名前　宜野座 夢豊
■タイトル　美味しそうなキノコ
■撮影場所　守衛室向かいの自転車置き場近く
■撮影者説明　テングタケの仲間。美味しいだろうけど毒があるので食べるのはやめました。2025 年 6 月
■審査員コメント　テングタケ科のキノコにはイボテン酸という毒成分があり、これがグルタミン酸に似た構造を持ち、かつグルタミン酸の約 10 倍の旨味を持つため、間違いなくこのキノコは美味しいです。ただし、興奮毒性や幻覚作用を引き起こす可能性があるので気をつけて。

佳　　作

■名前　　久代 夏実
■タイトル　　初夏のひとやすみ
■撮影場所　　慶応大学本館前 (テニスコート側) のバス停付近の芝生
■撮影者説明　　バスを降りたとき、足元に舞う蝶を見つけ、思わず後を追いました。そして、蝶がシロツメクサにとまった瞬間を、同じ目線で写真に収めました。忙しい毎日の中でも、ふと足元に目を向けるだけで、静かに広がる美しさがあることに気づかされます。(撮影時間 : 2024 年 5 月末)
■審査員コメント　　期せずして蝶目線。芝生に見える場所が実はこんな花畑だったとは。

佳　作

■名前　齋藤 健
■タイトル　last summer
■撮影場所　メディアセンターの２階の窓から SFC の入り口の方向に向かって写真を撮った
■撮影者説明　july 2025 帰り道の大学生の写真。懐かしい学生の記憶、真夏の暑い中友達と帰宅したいい思い出をイメージした。
■審査員コメント　これはステキな写真ですね。SFC 本館前、誰もが分かる構図ながら、あまり見たことがない視点で新鮮です。

佳　作

■名前　坂本 健斗

■タイトル　門出と挑戦

■撮影場所　南門の坂の上

■撮影者説明　2019 年 4 月撮影。SFC 中高時代に、生徒会として入学式の手伝いをしたときに心を打たれた桜並木。卒業生でもなく新入生でもない、ゆとりがあったからこそ改めて深く味わえた SFC の豊かな自然には、新たな学年への決意を後押ししてくれるような力強さもあった。

■審査員コメント　春の SFC はソメイヨシノが至るところに咲きますよね。奥行きのある春の桜並木がよく撮れています。

佳　作

■名前　櫻井 琴
■タイトル　未来交差
■撮影場所　Ω館の外にある階段の上にある、柱を撮影しました
■撮影者説明　階段の上で撮影したこともあり、自力で学問を上り歩きながら空へと道を切り開き続け、横断歩道のように未来で交差するようなイメージが思い浮かびました。2025 年 6 月 17 日 16:46
■審査員コメント　見たこともない風景。切り取り方でこんな鮮やかな色と形が浮かび上がるのかと驚きです。

佳　作

■名前　柴田 龍輝

■タイトル　秋を見つめる親子の木

■撮影場所　κ館の前からバス停方向を望んで

■撮影者説明　寄り添うように立つ二本の木。まるで親が子に静かに語りかけるようなその姿は、SFC が歩んできた 35 年の月日と重なる。1990 年の設立以来、SFC は時代の変化を受けとめ、次世代へと知を受け継いできた。親から子へ、過去から未来へ、SFC に流れる時間が、秋の陽射しとともに静かに写し出されている。(2024 年 10 月撮影)

■審査員コメント　この二本の樹を智徳の継承の象徴のような視点で捉えているところが斬新です！

佳　作

■名前　髙橋 采子

■タイトル　凍りついたガラス越しの SFC

■撮影場所　ｏ２階 (たぶん o24) です

■撮影者説明　2022 年 1 月末、研究会の学期最終日。外に目を向けた瞬間、いつも見慣れたキャンパスがまるで違う顔をしているように感じました。冬の冷たい空気と静かな風景の中で、普段とは異なる雰囲気が広がっており、ふとした瞬間に見せるキャンパスの別の表情に心を奪われました。また、氷に見える模様が実はガラスに貼られたフィルムに気泡が入っているだけなのがポイントです。

■審査員コメント　季節が鮮やかに切り取られた写真。屋内と屋外の温度差もあらわれていて、SFC らしい、それでいて見たこともないような新鮮な風景です。

佳　　作

■名前　　天坂 優希

■タイトル　　ようやく見えた富士山

■撮影場所　　κ館研究棟の５階

■撮影者説明　　ジャンボゴルフ付近の道路からも見える富士山ですが、キャンパスに一歩踏み入れると、林によって姿が隠れてしまいます。研究棟の５階まで上って、ようやく富士山を目にしたときには、喜びもひとしおです。(撮影時期：2024 年 1 月)

■審査員コメント　　冬の富士を望む清涼な空気感がよいですね。SFC は西側に森があるので、なかなか富士山を見られないのですが、少し工夫したらいくつか良いスポットがあるんですよね。皆さん、晴れた日は研究棟の５階にいきましょう！

佳　作

■名前　富井 優花
■タイトル　ひかりのおと
■撮影場所　α館近く
■撮影者説明　ある日の帰り道、ふと後ろを振り向くと、暗闇の中に輝く建物たちが目に飛び込んでくる。その淡い「ひかり」の中に身を置くと、まるでその「ひかり」に導かれて、ここにいるような感覚に包まれる。揺れ動き、あたたかさを含み、静かにたたずむ、ひかり。どんなわたしにもそっと寄り添ってくれる、ひかり。
■審査員コメント　暮れなずむキャンパスの色の濃淡をキャンパスから出る人工光と見事に対比させており美しいです。

佳　作

■名前　土門 達洋

■タイトル　鴨の隊列

■撮影場所　サブウェイの横

■撮影者説明　2025 年 5 月撮影。SFC を象徴する鴨たちが、整然と隊列を組んでお散歩している姿を捉えた一枚です。その可愛らしい様子に思わず心が和みました。入学したばかりで不安だった気持ちも、こうした日常の風景に癒され、少しずつ前向きな気持ちを取り戻すことができました。SFC での生活に温もりを感じた、忘れられない瞬間です。

■審査員コメント　SFC を象徴する鴨。大きさや色の異なる鴨が散歩をしている様子が多様性を表現していると思われる。

佳　作

■名前　永田 萌恵

■タイトル　まるく切り取る SFC

■撮影場所　SFC のベータスタジオからの景色をベータスタジオのドアにある円越しに撮りました

■撮影者説明　私は普通に風景を切り取るのではなく、何かの “かたち” を通して SFC の一瞬を写したいと考え、この写真を撮影しました。撮影場所は、私が大学入学当初からよく利用しており、自然も多く感じることができるお気に入りのβスタジオです。βスタジオには外が見える窓がなく、外の様子を感じられる唯一の場所が、このドアにある小さな丸い窓です。 日々作業している中でふと目に入るこの円窓越しの風景に、天気や時間帯によって変わる自然の表情を感じ取り、そこに面白さや美しさを見出しました。この写真には、閉ざされた空間から小さな窓を通して見える広がりや、日常の中にある発見の瞬間を込めました。 撮影日時：2025 年 7 月の夕方

■審査員コメント　構図に工夫が見られました。βビレッジの風景もまた SFC らしい。丸い窓からドーム型の建物 (看護ではこの建物をよく FD に使います) を覗き見るのがかわいい。こちら側のドアの色もまた良い。

佳　作

■名前　滑川 寛
■タイトル　鴨池で卒プロのワークショップ
■撮影場所　鴨池 (κ 館前あたり)
■撮影者説明　小林博人研究会の卒プロ生がおのおのの卒プロ (建築ワークショップのための屋台とその仕組み、地形に座るベンチ、地域らしさを探るワークショップのキット) を他の SFC の学生にも試してもらうため、鴨池でワークショップをしました。さまざまな研究分野の学生が集う SFC なので、多くの学生から様々な視点で、コメントをいただく、良い機会になりました。(2025 年 1 月 24 日)
■審査員コメント　SFC の活動の多様さがものづくりにあらわれている、いい写真です。

佳　作

■名前　西田 康平
■タイトル　北の国から SFC へ
■撮影場所　鴨池の南側の斜面
■撮影者説明　鴨池で調査中、不意に「シューッ」と風を切る乾いた音がして、見るとコガモの一群が鴨池に着水。まだ紅葉の落葉がちりばめられた初冬の斜面を背景に飛ぶ冬鳥のコガモたちの姿は、キャンパスに冬を連れてる使者の到来を思わせるものだった。(2024 年 12 月)
■審査員コメント　鴨の飛翔の一瞬をうまく切り取っている。本当によく捉えましたね。

佳　作

■名前　深町 優雨
■タイトル　先輩になる春、見えた景色
■撮影場所　バス列に並ぶ歩道から。食堂と鴨池がちょうど一直線状になる場所
■撮影者説明　2023 年 3 月 27 日、23 年度入学の新入生向け言語ガイダンスでスタッフとして参加した帰り道に撮影しました。初めて「先輩」として後輩を迎えることへの喜びと、キラキラとした 1 年生の姿に眩しさを感じ、「初心を思い出しもっと頑張ろう」と心を新たにした一日でした。バスを待ちながらふと見上げると、夕陽と鴨池、そして校舎が一直線に並び、春の訪れを告げる桜と芽吹き始めた緑が一面に広がっていて、その美しさに思わずシャッターを切りました。
■審査員コメント　凪いだ鴨池に SFC の景色と空が映し出されて、とても幻想的です。

佳　作

■名前　藤田 叶子
■タイトル　西日が射す
■撮影場所　o 棟 4 階
■撮影者説明　2025 年 6 月に撮影。夕方に o 棟の教室に向かう時、西日が射して、正方形の窓の形が床にも並ぶのを見かけます。そのうちの一つが、部分的に光が壁に当たって、影を作り出しているのを見つけました。
■審査員コメント　同じ枠でも時間によって見え方は異なり、他者 (この場合は影) によってもその形を変え得る。夕方に 1 時間程度現れた SFC の美のひとつだと思います。よく記録してくれました。

佳　作

■名前　前田 大輔
■タイトル　幾何学と連続の学舎
■撮影場所　κειο館の後ろ、喫煙所の近くから撮影しました
■撮影者説明　SFC を散歩していると、四つ並んでいるκειο館の幾何学的な建築と連続性にふと目が止まり、写真を撮りました。(2025 年 7 月)
■審査員コメント　κειο館の後ろからの風景。なかなか注目されない後ろ側からの一枚。新しい視点ですが、これも SFC らしいです。そして、ここに最も多くの教員が集まっています。SFC のひとつの BRAIN とも言える棟群かもしれません。

佳　作

■名前　三木 咲乃
■タイトル　自然な日常
■撮影場所　キャンパスの外周の内、慶応大学バス停に最も近いところ
■撮影者説明　2022 年 11 月。深い理由はなく、午前中に授業終わってこの後のバイト嫌だなーとか思ってたタイミングでふと綺麗だなと思って撮ったまま、削除せずずっと保管してた写真。なんだか SFC の緑豊かさが全面に現れている感じでお気に入りで、何かと脳裏にずっとあって忘れてなかった写真。
■審査員コメント　この秋の SFC に表れる燃えるような紅葉を見ると、テンションあがりますよね♪

佳　　作

■名前　　宮武 杏朱

■タイトル　　梅雨の訪れ

■撮影場所　　Δ館、τ館付近

■撮影者説明　　この写真は、2025 年 6 月 10 日に撮影した一枚です。雨に濡れた花びらが静かに輝き、SFC に梅雨の訪れを告げているように感じました。日々の忙しさの中でふと立ち止まり、自然の美しさや季節の移ろいに心を向けられるこの場所が、私にとって特別な癒しの風景となっています。

■審査員コメント　　アジサイが咲き終わると、テスト期間が始まりますね。いつまでも咲いていてほしいのでは？

佳　作

■名前　森 裕太

■タイトル　キャンパスのやわらかいところ

■撮影場所　鴨池を挟んで校舎の反対側にある芝生から、友達を手前に入れて校舎を撮影しました

■撮影者説明　撮影日：2025 年 7 月 9 日。鴨池のほとりに広がる芝生から、大学の校舎を撮影しました。手前には友人が座っており、その向こうに見えるのは、いつも通っているキャンパスです。この場所から校舎を見るのは初めてでしたが、池越しに見る白いコンクリートの建物と、その周りの木々や水面に映る景色が、とても印象に残りました。直線的な建物の輪郭と、やわらかい自然の曲線がちょうどよく混ざり合っていて、立ち止まって眺めたくなるような静けさがありました。普段は建物の中や近くばかりにいるけれど、少し離れてみると、新たに気づくことがあります。この写真は、そんな日の記録です。

■審査員コメント　パンフレットやウェブサイトでよく見る構図だが、手前に人が入るとパンフレット写真が急に「人が眺める風景」に変わって見える。驚きの写真です。

佳　　作

■名前　　安田 求
■タイトル　　SFC のきのこ
■撮影場所　　τ館の隣りの道
■撮影者説明　　SFC を散歩してた時にふと目に入ったきのこです。
■審査員コメント　　タウ館の辺り、いつも 30 センチくらいある巨大かつかわいいフォルムをしたキノコが生えるんですよ。そして忽然と消える。誰かが食べてるの？ SFC にある衝撃的なキノコ環境を記録してくれたことに感謝です。

佳　作

■名前　渡邊 光祐

■タイトル　先に見える光

■撮影場所　Ω館の入り口から撮ったものになります

■撮影者説明　早朝の SFC で撮影したものになります。普段何気なく使っているΩ館でしたが、太陽の光が綺麗に映り込んでいたため撮影しました。手前の階段が複雑に入り組んでいる先に、綺麗な光が入っている様子が素敵だなと思い撮影しました。(2025 年 7 月)

■審査員コメント　モダンで無機質、秩序だったΩ館から覗く自然豊かな外の風景が SFC らしいコントラストです。